

第4. 学習指導の重点

1. 本年度の達成目標（大東）

(1) 基礎学力の充実をはかる

生徒一人ひとりの学力の適正な評価に努め、人間尊重の精神を基本として基礎学力の向上を図り、生徒が学習の喜びを体得し、自主的な学習の意欲をおこすように努める。

(2) 個性・能力に応じた指導を徹底する

個々の生徒の個性と能力を正しく把握し、能力の開発と個性の伸長のため、「理数専門コース」「理文コース」・「文科コース」と多様な選択科目を一層充実させて、積極的な学習の場を提供するとともに個に応じた指導を行う。

本年度の達成目標（緑風冠）

- (1) 基礎学力の充実に努めるとともに、自ら学び考え、その考えを発信する姿勢をはぐくむ。また、進学をはじめとする進路実現に対応できる学力を錬成する。
- (2) 生徒一人ひとりの個性や適性、進路希望に応じたきめ細かな学習指導を行うために、より十分な授業日数・時教の確保に努め、学ぶ意欲を醸成するとともに、学習達成の喜びを高める。
- (3) 自らの在り方生き方に対する自覚を深め、将来を見据えて進路を真摯に考察できるように、ガイダンス機能・学習内容などの充実を図るとともに、生涯にわたって学び続ける姿勢をはぐくむ。
- (4) 家庭との緊密な連携のもと、きめ細かな生徒指導や教育相談などを通して、社会の一員としての自覚の涵養や自主的な学習習慣の確立に努める。

2. 各教科の達成目標

国語科	国語に関する幅広く深い理解力と表現力を養い、思考力を養成する。また、歴史的遺産としての古典に関する理解力・鑑賞力を身につけることをめざす。
地歴・公民科	地理と歴史の認識を具体的・客観的に培い、それを踏まえて、現代の社会を総合的に把握できる幅広い視野と合理的な思考力、判断力を育成する。
数学科	事象を数学的に考察し、処理する能力を高めるとともに、論理的に考えて、統合的発展的な見方ができるようにする。1年は、「理数数学Ⅰ」などを設定し少人数クラスによる授業で一人ひとりの学力を伸ばすよう対応する。2・3年は、エリア指定科目やコースによる選択科目を通じて、興味・関心や進路希望に応じた授業を展開して、目標の達成をめざす。
理科	問題解決的な学習や体験的な学習を推進し、科学的な物の見方や考え方などの科学的素養を身につけさせるよう努める。さらに、自然科学と科学技術の発展、進歩に伴う成果を直接、あるいは間接的に反映させ、時代の進展に即応できる柔軟な思考力や創造的な能力を育む。
保健体育科 (体育)	各種運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
(保健)	個人および社会生活における健康安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理するとともに、生活改善のための資質や能力を育てる。

芸 術 科	表現・鑑賞を通して感性を高め豊かな創造力を養うとともに、芸術・文化を愛好し尊重する心情を育てる。 (大東) 個性を尊重し、伸長させるため、できる限り個別指導を行う。また、芸術関係の進路を選択する生徒についても同様に対応し、能力の向上を図る。 (緑風冠) エリア学習により上記をより推進し生徒の進路実現を図る。(音楽・美術) 書写能力を高めるとともに、各自の意図や感動を表現する力を育てる。(書道)
英 語 科	(大東) 少人数展開の授業により生徒の学習状態を的確に把握し、その現状を踏まえた指導を通して生徒の意欲を引き出し、読み・書き・聞き・話す力の向上を図る。 英語の学習を通して、世界中の様々な文化・価値観について学び、また自国の文化や歴史についても理解を深める。 (緑風冠) 視聴覚教材を活用することで生徒の学習内容や英語に対する興味・関心を高め、また同時に読み、書き、聴く、話す力の基礎基本の定着を図る。 少人数・習熟度別展開の授業を行うことで、個々の生徒の学習状況を的確に把握し、現状を踏まえた指導を行っていく。また、多彩な選択授業を通して、個々の学習目標の達成や進路実現に資する力を養う。
家 庭 科	(大東) ライフステージごとの課題意識や共生の視点をもって自らの生活を創造する能力を養う。 (緑風冠) ・「健康・衛生・安全」という視点から生活に関する基礎的な考え方・取り組み方を習得する。 ・地域の人たちとの連携をとおして共に生きることの大切さを知る。 ・自分自身を見つめ直し、自分に自信を持って歩んでいける力をつける。
情 報 科	学校図書館やコンピュータなどを活用し、情報を適切に受信・検索・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用する態度を育てる
総合的な学習の時間	(大東) (大東スキルアップ) 生きていくための力「スキル」を向上させることを目的としている。1年では、「自分探し」「将来設計」「人権学習」を、2年では、「学校選び」「多文化共生・人権学習」を、3年では、社会人になるための「意識の向上」を柱として展開している。自らが進んで学ぶ時間として、生徒自身の力を伸ばしていくことを目標としている。 (緑風冠) (スタート・アップ) 自らの在り方生き方に対する自覚を深め、将来を見据えて進路を真摯に考察できる態度を育成するとともに、生涯にわたって学び続ける姿勢を身につけることを目標に、1年では「自己の探求」「職業理解」「高校卒業後の進路」「今後の学習計画」をテーマに、将来の職業選択を視野に入れた適切な高校3年間のエリア・科目選択(履修計画)を行うためのガイダンスを実施する。

3. エリアの達成目標(緑風冠)

エリア名称	趣 旨 ・ 目 標
人文・文化	歴史や文学、社会や経済などの学習を通して、人類の文化について理解を深めるとともに、変化の著しい現代社会における様々な課題を自己の問題として認識する。人文科学、社会科学を深く考察する資質を養う。 ・古今東西の優れた文学作品の鑑賞を通して、時代を超えて受け継がれた人間の在り方を学び、豊かな感性を醸成する。 ・現代社会の特質を知るとともに、人々の生き方や考え方を学び、主体的に課題に取り組む。 ・日本と世界の、伝統や文化、歴史や風土についての知識を深め、文化の多様性を理解する。
理数・自然 ・自然 ・理数	数学や理科に対する興味と関心を深め、科学的な洞察力や数学的な思考力を高めることにより、柔軟な考え方と新しい発想を育てる。自然の現象を深く考察し、自然科学の発展に寄与する資質を養う。 ・自然に対する興味をより深め、身近な現象を科学的、合理的に分析・理解する方法や考え方を身につける。 ・観察、実験、実習などの体験的な学習を通して、自然界の諸現象を科学的に探究する姿勢や能力を養う。 ・自然科学の基礎となる数学を体系的に理解し、数学的に考察・処理する能力を育てる。
英語・国際	英語の学習を通して、世界の言語や文化に対する理解を深め、国際的なものの見方を身につけるとともに、グローバル化が進む現代における生き方を考察する。将来、国際社会で主体的に活躍できる資質を養う。 ・LL機器などを活用して、英語による実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。 ・世界の人々の生活、習慣、考え方、文化、歴史を学ぶとともに、日本の伝統文化を踏まえ、多文化共生についての理解を深める。 ・情報通信ネットワークなどを活用した国際交流を通して、積極的に自らの考えを世界に発信し、真の国際人となる資質を養う。
生命・環境 ・生命 ・環境	看護や健康などについての学習を通して、生命に対する尊厳の精神を培うとともに、地球環境について学び、自然の大切さを実感する。将来、看護や医療、環境などの分野で社会に貢献できる素地と能力を養う。 ・看護や医療に対する興味・関心を高め、生命や健康の尊さを学ぶとともに、豊かな人間性を養う。 ・地域の治水の取り組みや環境保全を学び、環境問題に対する理解を深めるとともに、人と自然との共生の重要性を認識する。 ・人間や自然に対する科学的な見方を養い、看護や医療、環境に関する諸問題を考えるとともに、体験的な学習・実習などにも取り組む。
表現・活動 ・芸術 ・スポーツ	芸術やスポーツに対する理解を深め、新しいものを創造する力と自己を表現する力を高める。芸術やスポーツを生涯にわたって愛好することを通して、豊かな感性を培い、運動能力の向上を図る。 ・音楽や美術などの学習を通して、芸術活動を深く理解し、芸術を愛する心情をはぐくむ。 ・スポーツ活動を通して、自己の可能性を最大限に追求する。また、スポーツ活動において、地域の指導的な役割を担う姿勢をはぐくむ。 ・情報機器やマルチメディア機器を活用し、芸術作品の制作やスポーツ技術の向上に取り組む。

人間・教育	人間の行動、心理、社会性などについての学習を通して、すべての人間が人間らしく生きることができる社会の実現に貢献する態度をはぐくむ。将来、保育、幼児教育、福祉などの分野で活躍する資質と精神を養う。 ・人間の発達・成長や子どもの教育に関する基礎を学習するとともに、育児の重要性を理解する。 ・福祉施設との交流を通して、福祉や高齢化社会などに関する基礎的な知識を習得し、福祉の意義や役割を理解する。 ・ボランティア活動を奨励し、保育実習など、地域に根ざした体験的な学習に取り組み、保育、幼児教育などについての関心を高める。
-------	---

4. 学習指導方法等の研修計画

(1) 職員会議

全教職員の研修会等を適時行う。

(2) 担任会議

毎週1回開いて生徒の実態把握に努め、個々の生徒の実態に即した指導方法について研究し、協議する。

(3) 学年担当者会議

担任会議に加えて、定期的に各学年にかかわる教科担当者による会議を開き、担任会議の協議結果を基に、個々の生徒の実態に即した指導方法について研究し、協議を行う。

(4) 教科研修会

各教科に毎週1回打ち合わせ会を開き、指導内容、指導法、学習評価法等について研究し、協議する。また、学習指導要領について研究する。

(5) 校内研究授業

随時、研究授業を実施し、反省、批評会を活発に行い、常に指導方法の改善向上に努める。

(6) 校外研究授業

他校の研究授業等は努めて見学し、指導方法の向上に資する。

5. 学習指導の改善と原級留置、退学の防止

(1) 学習到達度の低い生徒の早期発見と指導方法の研究

入学時における学力診断テスト、指導計画をもとにした学習到達度の測定、平素の学習状況などについての観察等によって、生徒の学習内容について習熟の状況を早期に把握し、それぞれの内容に応じて適切な指導方法がとれるよう工夫改善に努める。

(2) 組織的指導

学習到達度の低い生徒の指導には、教科担当者が教育計画との関連に留意しながら組織的にこれにあたり、学習意欲を喚起し、定期考査前・長期休業中にきめ細かい指導を行う。

6. 年間授業日数・時数の確保についての措置（緑風冠）

(1) 二学期制の特質を積極的に生かし、より十分な授業日数・時数の確保を図る。

(2) 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、確かな学力を身につけるため、週当たり最大35時限（総合的な学習の時間、LHRおよび希望者選択科目を含む）の授業を設定する。

(3) 完全学校週5日制にも柔軟に対応し、土曜日や夏季休業日などを利用してセミナーを開き、家庭との連携のもと、学力向上を支援する。